

2014(平成26)年度
法務研究科 法務専攻(法科大学院)B日程 入学試験問題

「小論文」

〈90分〉

(注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。)

【問題】次の文章は『長く働いてきた人の言葉』という本に収録されている加地修弁護士へのインタビューの一部です。この文章を読んで、印象に残った部分(1ヶ所でも複数箇所でもかまなわい)をあげ、それを踏まえて、「弁護士のあり方」について、自分の思うところを述べなさい。

文書1

文書1の問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

文書 1 の問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

文書 1 の問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

文書 1 の問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

文書 1 の問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

文書 1 の問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

入試日程 B 日程 出題科目名 小論文

1. 出題の意図

加地修弁護士へのインタビューを読んで、これをヒントに「弁護士のあり方」について、自分の思うところを述べる中で、法曹になりたいという志望動機、法曹という職業をどのように捉えているかについて、わかりやすい言葉で論理的に述べることができるかを、問うたものである。

加地弁護士の見解が、今後の弁護士像にとってどのような形で参考となるは、解答者それぞれが考えればいい。解答者が、加地弁護士の話のどこに興味を持ったか、それについてどのような意見を持っているかということも大切だが、それよりも、解答者が問題の問いかけに正面から答えているか、自分なりの意見をわかりやすく述べているかという点をより重視して採点した。解答者の見解が広く一般に受け入れられていないものであっても、それが一定程度の説得力を持って述べられていれば、高い評価を与えることとした。

2. 講評

加地弁護士の「自分は人間に興味がある」「経済的経営的問題の公益性のバランスをどのように取っていくのか」「依頼人には口に出していることと本心が違う場合がある」といった発言をとりあげ、それに即して自分の考えを述べたものが多かったように思う。

残念だったのは、印象に残った部分を絞りきれない答案、加地弁護士の意見の要約ばかりで、自己の意見が余り述べられていない答案、加地弁護士の意見にただただ賛同しているだけの答案が散見されたことである。これらの答案にはあまり高い評価を与えることはできなかった。

他方、加地弁護士の見解を踏まえた上で、それなりの自分の考えを展開し、加地弁護士の価値観をさらに発展させる要素を含んでいた答案もみられ、このような答案は高く評価した。